

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二第 卷一十三第

行發日一月八年五和昭

論 叢

段別割論 法學博士 神戸 正雄

數學的經濟學の論理的構造 文學博士 米田庄太郎

貨幣の本質について 文學博士 高田 保馬

時 論

米價基準設定に就いて 經濟學士 八木芳之助

說 苑

國家經費の轉嫁に就いて 經濟學士 小山田小七

統計の解説、批判、解拆 經濟學士 蜷川 虎三

經濟表について 經濟學士 柴 田 敬

雜 錄

生産費函數と生産費遞増減の法則 經濟學士 高 森 晋

歐洲諸國の建築工業に於ける失業の季節的變動 經濟學士 益田 熊雄

人口定數觀考 法學博士 財部 靜治

法 令

正米市場規則

附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁 轉 載)

經濟表について

柴田敬

一、序 二、經濟表範式 三、經濟表 四、經濟表の吟味 五、結論

一 序

既に幾多の人々によつて取扱はれた所の古典「經濟表」Tableau Economique を檢べ出したのは、實はそれについて別に新しい研究を爲さんが爲めではなくて、單に、資本主義社會の全體性に關して、¹⁾最初に爲された所の考察の展開がどんなものであつたか、を知らんが爲めであつた。然るに其の理解を進めるに従つて、其處に一つの問題——經濟表によれば各階級によつて爲される所の支出が生産階級の生産物の購買に傾くか不生産階級のそれに傾くかによつて、年々再生産される所の所得の額が異るとされるのであるが、それは如何なる理論によつて基礎付けられてゐるか、と言ふ問題——が、これまでの研究に於いては明にされてゐない様に思はれて來たので、それに關する疑問を一應纏めて見る事にした。本稿は即ちそれであつて、それは經濟表を全體的に吟味せんとするものではなく、只、經濟表に關する上述の問題のみを吟味せんとするものである。

1) 嚴密なる意味に於いては斯う言ふ事は出來ないが。

二 經濟表範式

經濟表範式 Formule du Tableau Économique は、經濟表が出版されてから八年後の一七六六年に「**商工業及財政雜誌**」上に掲載された所のケネーの論文「**經濟表解説**」^{1a)}の中に用ひられた所のものであるが、其後屢々重刻され引用されて來たのである。經濟表を吟味するに際して、我々は先此の經濟表解説より始むるを便とするであらう。

ケネーによれば、國民は、一、生産的(農民)階級、二、地主階級、三、不生産的(商工業者)階級の三階級に分けられるのである。經濟表解説従つて經濟表範式に於ては、之等三階級相互の關係は次の如きものと假定されてゐる。

「先ず地主階級は前年度の所得たる二十億を生産階級から受取り、其のうち十億を生産階級から農産物を購買する爲めに、他の十億を不生産階級から工作品を購買する爲めに、費す。

次に、生産階級は二十億の年々の前拂及び其の五倍に當る百億の本源的前拂(其の年々の消費率は一割)を以て、五十億の生産をなし其のうち、二十億は次年度の年々の前拂として自己階級に於いて消費する爲めに保留し、残りの三十億のうち十億は地主階級に賣り、二十億は不生産階級に——其のうち十億は不生産階級の生産原料であり、他の十億は其の生活資料である——賣る。斯くして得られる貨幣三十億のうち二十億は當該年度の所得として地主階級に對して支拂はれねばならぬのであり、十億は本源的前拂の消耗分を補充すべき工作品を購入する爲めに不生産階級

1a) Francois Quesnay: Analyse du Tableau Économique, Journal du l'agriculture, du commerce et des finances, 1766.— M. Eugène Daire の physiocrates 1. Partie— August Oncken の Oeuvres économiques et philosophiques du. F. Quesnay, 1888, p. 305-328.— Valentine Dorn の獨譯 Sammlung sozialwissenschaftlicher Meister. 1Bd. 2H. Fr. Quesnay Allgemeine Grundsätze der wirtschaftlichen Regierung eines ackerbaubetriebenden Reiches 192, S 23-513— 山口正太郎氏の邦譯、ケネー

に支拂はれる。

不生産階級の生産額は二十億であり、其のうち十億は地主階級に賣られ、他の十億は生産階級に賣られる。不生産階級の年々の前拂は十億であつて、生産階級から原料を購入する爲めに費され、生産品の販賣によつて得られる貨幣二十億のうち十億は不生産階級の生活資料を購入する爲めに生産階級に支拂はれ他の十億は次年度に於いて新たに生産原料を生産階級から買ふ爲めに保留される。」

經濟表範式は表を以て之を示さんとするものである。然るに上述の經濟表解説に於けるケネーの説明によれば、不生産階級の前拂十億は「原料購買の爲め生産階級に支拂」はるべき前拂、従つて、貨幣の形態に於ける前拂と考へられてゐるのに、經濟表範式に於ては之等の點は極めて曖昧である。従つて彼の解説に忠實ならんとするならば、寧ろ三邊氏に倣つて(第二)の如くなすべきであらう。然しながら經濟表との連絡を求め上からするならば、不生産階級の年々の前拂を其の爲めに前年度内に購入された所の農産物より成るものと假定する所の、バウアーの表⁷⁾によるを便とする。而してヘネーの用ひた所の經濟表範式は更に經濟表に接近してゐるのであつて、今一步それを進める事によつて、經濟表のズイグザグの眞意は理解されるであらう。

今、序述を簡單ならしむる爲めに

- 一、生産階級の年々の前拂、従つて、生産階級の生産物中生産階級自身の爲めに保留される額を………
- 二、生産階級の本源的な前拂の補充、即ち所謂利子、従つて、本源的な前拂の補充の爲めの工作品に對する生産階級の需要を………

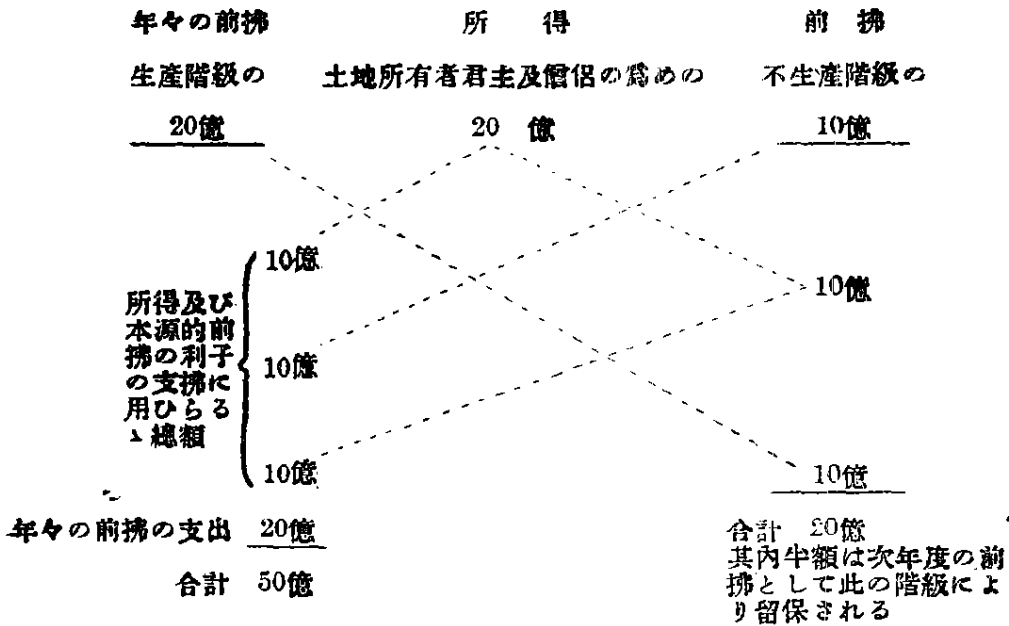
Ap9)

「經濟表の分析」、我等九卷九號、1927 p. 21—38.

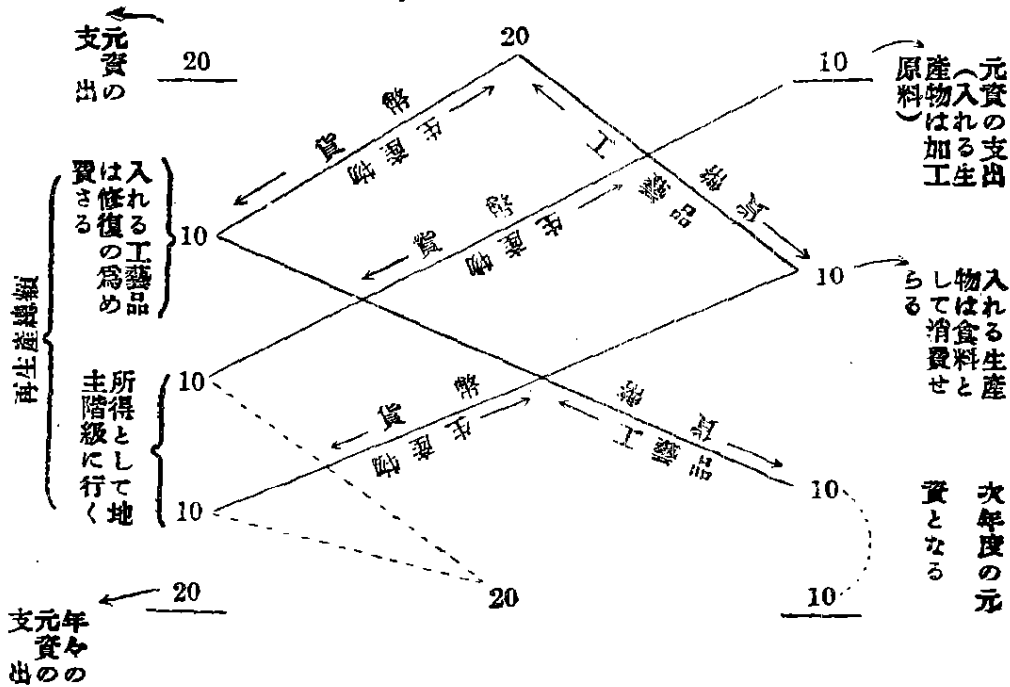
2) 容易に入手し得るものとしては、例へば、舞出長五郎氏、フランソア・ケネーと經濟學、山崎教授還暦紀念經濟學研究第一卷一二四頁、Jau St. Lewinski: The Founders of Political Economy 1922 p. 52. Karl marx: Theorien über den mehrwert, I Bd. 1923, S. 87, マルクス エンゲルス全集8卷111頁、三邊金藏氏 Tableau Economique (經濟表)の解説、三田學會雜誌、十二卷、十一號、44

(第一) 經濟表範式 (Quesnayの)

再生産總額 : 50 億



(第二) 經濟表範式 (三邊金藏氏の)

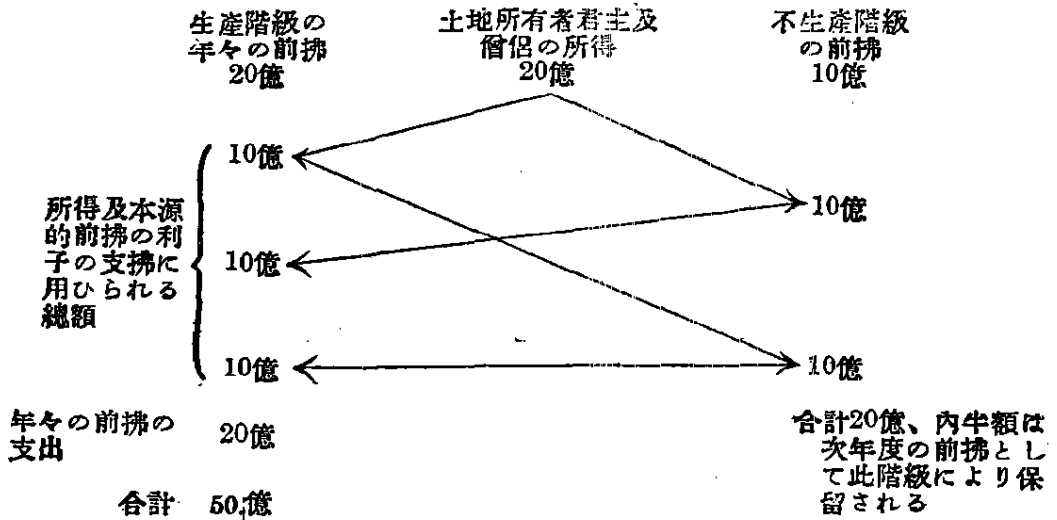


說苑 經濟表について

第三十一卷 二六八 第二號 一一二

(第三) 經濟表範式 (Bauerの)

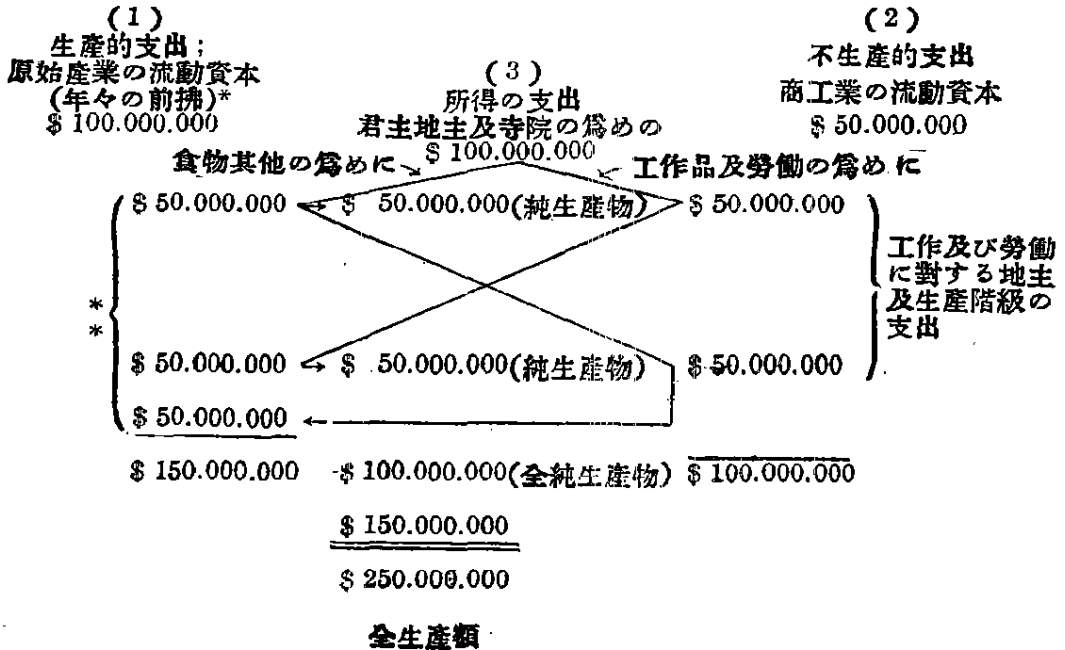
再生産總額 : 50 億



(第四) Lewis H. Haney の用ひたるもの

全生産額

\$ 250,000,000 (1.2. 及び 3)



三、地主階級が購買の爲めに生産階級に對して爲す支出を……

四、地主階級が購買の爲めに不生産階級に對して爲す支出を……

五、所得を……

六、不生産階級が購買の爲めに生産階級に對して爲す支出を……

を以て示す事にする。然る時は、曩に經濟表解説の大要に於いて地主階級に關して述べた所は

$R = P_p + P_s$ となり、生産階級について述べた所は

$A_p + R = A_p + P_p + S_p$ となり、¹⁵⁾ 不生産階級について述べた所は

$S_p = i + P_s$ となり。

而して、此の三ヶの方程式の何れか一つは他のものから導き出され得るのであるから、經濟表範式的基本的體系は結局二ヶの方程式を以つて示され得るのである。以下我々は此の事を手引として經濟表の吟味に進むであらう。

三 經濟表

一七五八年十二月に出版された筈の經濟表第一版は、まだ發見されてゐない。¹⁶⁾ 然るに僅か三部しか出されなかつた第二版の一部は一八九〇年バウアー氏によつて巴里の Archives National に保存せらるゝミラポールの遺稿中から發見され、一八九四年ケネー生誕二百年に際し British

$(S_{p14})(R_{13})(P_{s12})(P_{r11})(i_{10})$

3) 頁、——山本勝市氏前掲39頁——福田博士前掲卷頭經濟表(其四)及108頁、Jan St. Sewinski: The Founders of political Economy, 1922, p. 50(鏡氏譯82頁)には Scheme of Quesnays Tableau Economique と云ふ面白い圖解が示されてゐる。それは、H. Denis が Die physiokratische Schule und die Erste Darstellung der Wirtschaftsgesellschaft als Organismus, Zeitschrift f. Volkswirt. Sozialpol. u. Uerwalt. Bd. 6. 1897. S. 88. Schéma de la circulation des richesses sans

Economic Association によつて複製されて世上に流布されたのである。¹⁷⁾ 私が單に經濟表と呼ぶ所のものはこれである。¹⁸⁾¹⁹⁾

經濟表によれば、流通過程は次の様に行はれる。

「地主階級の一員は前年度の所得六百リールを生産階級の一員から受取り、そのうち一半を農産物購買の爲めに、他の一半を工作品購買の爲めに費す。

次に、斯くして地主階級の一員から三百リールを受取つた所の生産階級の一員は、其の半を生産階級の他の一員から農産物を購入する爲めに費し、他の一半は不生産階級から工作品を購入する爲めに費す。而してこれによつて再び三百リールの純生産を生む。斯くして生産階級の一員から百五十リールを受取つた所の不生産階級の一員は、其の半を不生産階級の他の一員から工作品を購入する爲めに費し、他の一半は生産階級から農産物を購入する爲めに費す。而して斯くして不生産階級の一員から七十五リールを受取つた所の生産階級の一員は、又其の半を生産階級の他の一員から農産物を購入する爲めに費し、他の一半は不生産階級から工作品を購入する爲めに費す。而して又これによつて七十五リールの純生産を生む。即ち斯くの如き過程が次から次に續けられる。他方に於いて地主階級の一員から三百リールを受取つた所の不生産階級の一員は、其の半を不生産階級の他の一員から工作品を購入する爲めに費し、他の一半は生産階級の他の一員から其の生産物を購入する爲めに費す。而して斯くして不生産階級の他の一員から支拂はれる百五十リールについても亦上述の如き過程が續けられる。²¹⁾」

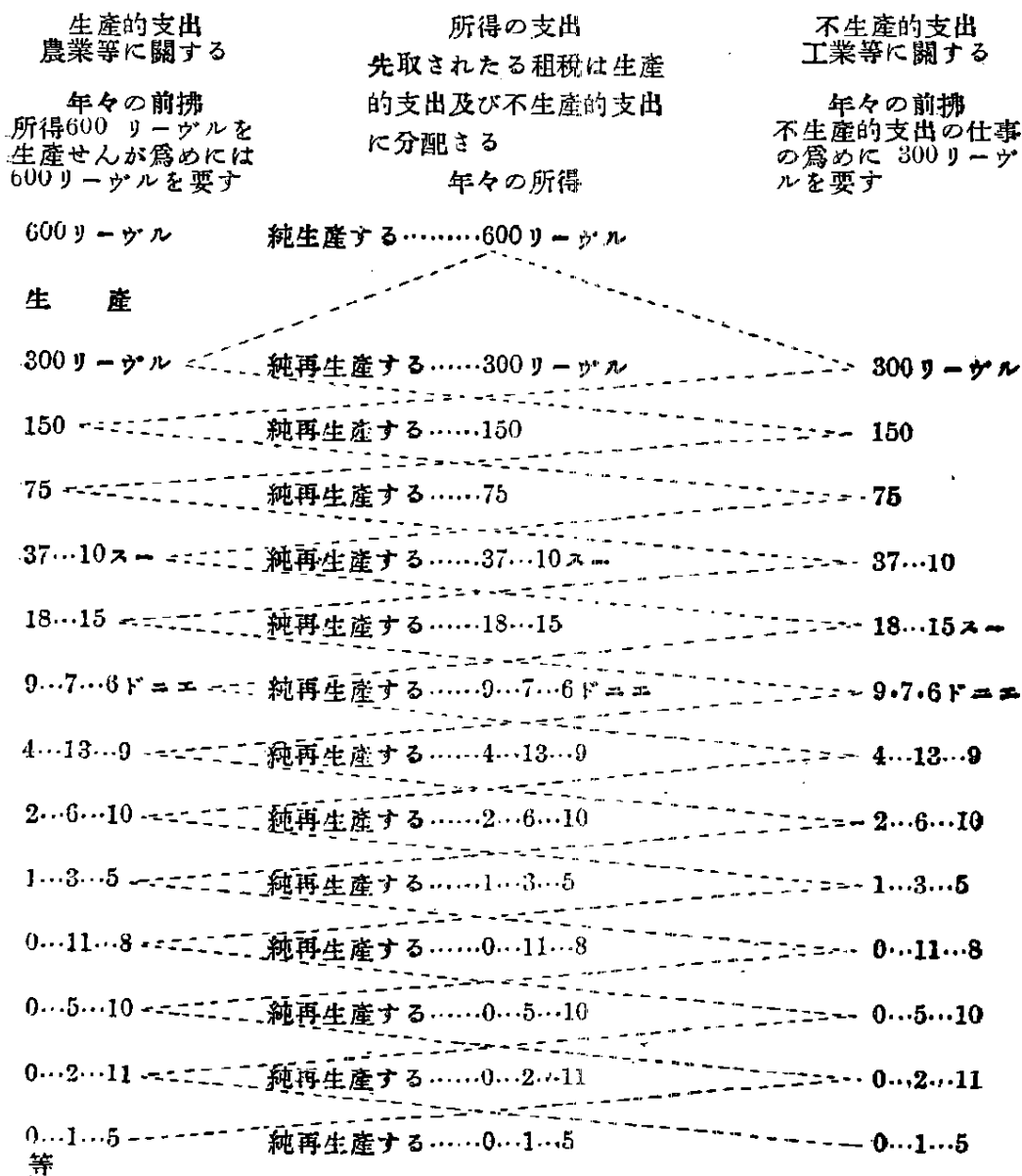
intervention de la monnaie. として掲げたる圖解に外形上似てゐる。Denis は其の次葉に、今一つ Schéma de la circulation des richesses avec intervention de la monnaie なる圖解を掲げてゐる。然し之等は、本稿の問題に直接觸れないから略する。

4) 以上は大意に過ぎぬ。詳細は脚註1の文献参照。

5) Oeuvre par A. Oncken, p. 310. Sammlung Sozialwissenschaftlicher meister 1.

(第五) 經濟表 (第二版)

考察の對象(1)三種の支出(2)其の源泉(3)其の前拂(4)其の分配(5)其の效果(6)其の再生産(7)其の相互間に於ける關係(8)それと人口との關係(9)農業との關係(10)工業との關係(11)商業との關係(12)國民の總體的富との關係



再生産總額.....所得600リーヴル及び年々の費用600リーヴル及び土地が補償する所の農耕者の本源的な前拂の利子300を以てしたものである。故に再生産は1500リーヴルとなるのであるが、その中には(先取されたる租税を捨象して)計算の基礎である所の所得600リーヴル及び年々の再生産に要する前拂を含む。尙次の頁の説明参照

說苑
經濟表について

第三十一卷

二七二

第二號

一一六

以上の過程を表にしたものが經濟表であるが、然しそれは單に斯かる流通過程の序述に止まるものではなくして、各階級の費す所が生産階級の爲めに偏するや不生産階級に偏するやによつて一國の榮亡が決せられる事の判定に役立つものと考へられてゐるのである。²³⁾即ち「上述の場合には）再生産的支出が同一額の所得を年々再生産する所の平均的狀態を考慮したのである」

「(所が)之等の支出は、支出者が糊口の方面で贅澤をするか裝飾の形で贅澤をするかによつて、多少どちらの側にでも傾き得るものである……然るに、不生産的支出と生産的支出との何れか一方が多少とも地方よりも多くなるに従つて所得の年々の再生産は如何に變化されるものであるか、と言ふ事は容易に見られ得る所である。と言ふのは實にそれによつて起る所の表上の變化によつてこの事を判断する事が容易なのである。何となれば、假りに地主が裝飾の形に於いて爲す所の贅澤が $\frac{1}{10}$ だけ、工人のそれが $\frac{1}{10}$ だけ、及び、耕作者のそれが $\frac{1}{10}$ だけ、(上述の平均の場合よりも——柴田)増加するならば、所得の再生産は六百リールから五百リールに下落するであらう……から。即ち、裝飾の方面に於ける贅澤の超過は富裕なる國民をも忽にして著しく破壊するものである、と言ふ事は明かである。²³⁾」と論せられるのである。²⁴⁾問題は茲に存する。

經濟表と經濟表範式との關係については從來色々の點が指摘されてゐる。例へば、バウアーは「(經濟表に於いて示された所の)個々人間の分配過程は(經濟表に於いては)收縮され、只、國民的生産物の(社會階級相互間の)流通過程だけが考察されてゐる。第一又は第三階級の構成員が同一階級内で爲す所の個々の賣買は(經濟表範式では)消えてゐる。而して(經濟表が假定した所の)

Bd. 2 Heft (übert. von V. Dorn) s. 25, 我等九卷九號 (山口正太郎氏譯) 23頁

6) 三邊金藏氏前掲十二卷十一號50頁

7) Stephan Bauer ibid. p. 17.

8) Lewis H. Hancy: History of Economic Thought, p. 147 * の所には and primitives” となつてゐるが誤謬である。 ** の所には “Sums which yield

一生産年度内に於ける所得の除々の支出は、(經濟表範式に於いては)收縮され、地主階級が農業階級及び工商階級から二つの纏つた購買をする事になつてゐる。²⁵⁾と言ひ、三邊氏は更に、「(經濟表に於ては)地主階級の掌裡に歸する所得の規則正しき回歸を中心として考察し行けるに反し、今(經濟表範式)は生産階級の掌裡に歸する年々の元資の規則正しき回歸を中心として同じ主張を立てんと試みた²⁶⁾」のであると言つて居られる。又、オンケン²⁷⁾は、經濟表範式は經濟表の「最初のズイグザグを描寫する」に過ぎない、と解してゐる。然しながら、私の所謂問題はこれまでの説明によつてはまだ明にされなかつた様に思はれるのである。

四 經濟表の吟味

今經濟表を分析するに當つて看過すべからざる事は、經濟表に於いては生産階級の生産物に對する地主又は不生産階級の需要が生産階級の生産的支出と混同されてゐる事である。

今經濟表範式によるに、ここでは經濟表に於けると同様に、一、地主の農産品に對する需要は工作品に對する其の需要と同額であり、二、生産階級の本源的な補充は、其の年々の前拂の半額に當り、三、生産階級の年々の前拂は年々の純生産と同額である。従つて若し經濟表範式の體系によるならば、而して經濟表に倣つて年々の所得、従つて生産階級の年々の前拂を六百リールとするならば、生産階級の設備資本の年々の補充は三百リールであり、生産階級の年々の生産額は千五百リールである。然るに此の數は經濟表の脚註の數と正に符合する。即ち經濟表

replacement for fixed capital; subsistence and profit of husbandmen” となつていなるが正確でない。

- 9) Avances nouvelles de la classe Productive
 10) intérêt
 11) dépenses de la classe Propriétaire en achats à la classe Productive

が上述の如き計算によつたものである事は容易に推察され得る所である。所が經濟表範式に於いては生産階級の生産物に對する地主及び不生産階級の需要額は年々の純生産額と異つてゐるのに經濟表に於いては上述の如く此の兩者は同一視されてゐるし、又、經濟表範式に於いては不生産階級は自己階級の生産物を購入し得ないのに、經濟表に於いては購入する事になつてゐる。斯くの如く前提を異にしたものが結果に於いては大體同じものとなつたのは何故であらうか。問題解決の緒口は此處に存する様に思はれる。

今此の事を明にする前に我々は先づ經濟表のズイグザグの意味を究めねばならぬ。即ち經濟表のズイグザグによれば、地主階級の一員の農産物に對する需要 P_p の半額は更に生産階級の一員の工作品に對する需要となり、更に其の半額従つて農作物に對して最初爲されたる需要 P_p の $\frac{1}{4}$ は再び不生産階級の一員の農産物に對する需要となり、斯くして以下同様なる過程を續けるのである。他方、地主階級の一員の工作品に對する需要 P_p の $\frac{1}{2}$ に相等する所の、不生産階級の一員の農産物に對する需要は、更に其の半額が生産階級の一員の工作品に對する需要となり、更に其の半額従つて農産物に對して不生産階級の一員によつて爲されたる最初の需要額 P_p の $\frac{1}{4}$ は再び不生産階級の一員の農産物に對する需要となり、斯くして以下同様の過程を續けるのであるから、農産物に對する地主及び不生産階級の需要の總額——而して經濟表によればそれは又所得總額 R' に等し——は

$$P_p \frac{1}{1-\frac{1}{4}} + \frac{1}{2} P_p \frac{1}{1-\frac{1}{4}}$$

- 12) depenses de la classe Propriétaire en achats à la classe Sterile
- 13) revenue
- 14) depenses de la classe Sterile en achats a la classe Productive
- 15) 従つて $i+R=P_p+P_p$

である。所が所得は、來年度の支出に資し得る姿に於いて、換言すれば、貨幣として、地主階級の一員に渡さるべきものであるが、生産階級の一員は其の生産物を地主階級の一員及び不生産階級の一員に賣る事によつて得たる貨幣の半額を既に不生産階級の一員に渡して居るのであるから、生産階級の許に在る所の——従つて生産階級の構成員相互の交換を経て再び生産階級の曩の一員の許に歸り得べき——貨幣は

$$\frac{1}{2} \left(P_p \frac{1}{1-k} + \frac{1}{2} P_s \frac{1}{1-k} \right)$$

に過ぎず、従つて所得額とそれとの差額だけ不足してゐるのである。

又曩に述べたると同一の理由によつて、工作品に對する地主階級の一員及び生産階級の一員の需要の總額は

$$P_s \frac{1}{1-k} + \frac{1}{2} P_p \frac{1}{1-k}$$

であるが、不生産階級の一員は其の生産物を地主階級の一員及び生産階級の一員に賣る事によつて得たる貨幣のうち僅に半額だけを生産階級の一員に渡すに過ぎないのであるから、不生産階級の許には——従つて不生産階級の構成員相互の交換を経て又不生産階級の曩の一員の許に再び歸り得べく——

$$\frac{1}{2} \left(P_s \frac{1}{1-k} + \frac{1}{2} P_p \frac{1}{1-k} \right) \text{ だけの貨幣が残つてゐる。}$$

工作品に對する不生産階級自身の需要は、若しそれが單なる消費と考へられるのであるならば

- 16) August Oncken が其の著 *Geschichte der Nationalökonomie* 1922. S. 324 に「ミラボーの遺稿中に發見せられた所の……ケネーの手になる最も古き經濟表草案」として掲げた所のは、此の一版の草案原稿であらう。高橋氏前掲¹⁰ 42頁福田徳三博士流通經濟講話卷頭經濟書(其二)
- 17) 容易に入手し得るものとしては、Edwin Cannan: Editor's introduction to *The Wealth of Nations*. p. XXXVII—Jan St. Lewinski *The founders of political*

所謂不生産階級に就いてそれだけの純生産が前提されるのであり、従つてケネーの根本思想を本質的に破る事になるのであるが、然し、假りに經濟表範式の場合よりもそれだけ多くの經費を要すると言ふ事を意味するものであると見るならば、此の點は問題にせずして済む。所が、苟しくも全體性の體系と矛盾なからしめやうとするならば、不生産階級の許に残された所の貨幣は其の出發點に歸らねばならぬのであり、生産階級の許に不足する所の貨幣が何處からか齎らされねばならぬ。而して此の事は、不生産階級の一員が同階級の他員の手を経て再び自らの許に歸つて來る所の貨幣を以て次年度の爲めの原料を生産階級から購入する事によつて達せられるのであり、實に此の需要を俟つてはじめて、生産階級は年々の經費六百リール及び本源的前拂の年々の補充三百リールを補つた上に六百リールの純生産をなし、且つ貨幣形態に於いて地主階級の一員に渡し得るものとなるのである。經濟表に於いては農産物に對する地主階級の一員及び不生産階級の一員の需要額が純生産額と同一視される爲めに、斯かる全體性を其のまゝ表の中に採り入るゝ時には餘分の純生産額があらはれて來るのであり、従つて一部分を切り捨てる事によつて一應の體系が得られたのであるが、然しそれが全體性の考察と矛盾なきを得たのは實に、不生産階級の許に残る所の貨幣が生産階級の下に於いて不足する所の貨幣と相等しき場合である。従つて曩の假定の場合を採つて言へば、それが成立するのは、

$$\frac{1}{2} \left(P_s \frac{1}{1-i} + \frac{1}{2} P_p \frac{1}{1-i} \right) = \frac{1}{2} \left(P'_p \frac{1}{1-i} + \frac{1}{2} P'_s \frac{1}{1-i} \right)$$

従つて $P'_s = P'_p$ なる場合に限られてゐるのである。

economy, 1922, p. 29 藪三郎氏譯經濟學を建設せし人々81頁——高橋誠一郎氏經濟學史研究大正九年1042頁——福田徳三博士流通經濟講話卷頭——山下芳一氏譯古典經濟學の哲學的背景卷末——(英譯) Arthur Eli. Monroe: Early Economic Thought, p. 342——(邦譯) 舞出長五郎氏前掲 118頁——三邊金藏氏 Tableau Economique (經濟表)の解説三田學會雜誌十二卷十號126頁——山下芳一氏譯前掲卷末——島田英一氏重農學派經濟學の研究昭和二年66頁——

然るにケネーは「地主が裝飾の形に於いて爲す所の贅澤が $\frac{1}{6}$ だけ、工人のそれが $\frac{1}{6}$ だけ、及び、耕作者のそれが $\frac{1}{6}$ だけ」曩の場合よりも増加するならば、「所得の再生産は六百リーヴルから五百リーヴルに下落」するのであり、従つて、「富裕なる國民も忽にして破壊される」事が明かにされる、と考へたのである。²⁰⁾

今此の計算が如何にして行はれたかを詳にするを得ないのであるが、三邊氏は

左及中	右
250.	350.
125.	175.
62.10	87.10
31.05	43.15
15.12.6	21.17.6
7.16.3	18.18.9
3.18.1	5. 9.4
1.19.0	2.14.8
0.19.6	1. 7.4
0. 9.9	0.13.7
0.4.11	0.6.10
0. 2.5	0. 3.5
0. 1.2	0. 1.8
500.	700.

として居られる。³⁰⁾此の計算による時は如何にもケネーの答と一致するけれども、それでは然し、「工人が裝飾の形に於いて爲す所の贅澤が $\frac{1}{6}$ だけ、及び、耕作者のそれが $\frac{1}{6}$ だけ」曩の場合よりも増加するならば、「と言ふケネーの前提は全然無視される事になる。今此の前提に忠實ならんとするならば、前年度の所得六百リーヴルを生産階級の一員から受取つた所の地主階級の一員は、そのうち二百五十リーヴルを農産物の購買の爲めに、二百五十リーヴルを工作品の購買の爲めに、費すのであり、斯くして地主階級の一員から二百五十リーヴルを受取つた所の生産階級の一員は、其の7/12を不生産階級から工作品を購入する爲めに費すのであり、斯くして生産階級の一員から二

18) G. Schelle: Qusnay et le Tableau économiqne, 1905 は「彼(ケネー)は、第二版を誂へたる如く第三版を誂へた。そして之をミラボーに贈つたばかりでなく、少數の人々に頒つたことは、フォルボンネーの言ふ如くである」と言つてゐる(山下芳一氏譯前掲156頁)山本勝市氏によれば、第三版も1759年に出外されたものの如くである。(同氏論文「榊田民藏氏の經濟表批評を評す」内研究一卷一號31頁)

百五十リールヴルの $\frac{7}{12}$ を受取つた所の不生産階級の一員は其の又 $\frac{5}{12}$ 、従つて最初に爲されたる需要 P_0 の $\frac{35}{144}$ を、生産階級から農産物を購入する爲めに費すのであり、斯くして以下同様の過程が續けられるのであり、他方、地主階級の一員の工作品に對する需要についても同様なる過程が續けられるのであるから、農産物に對する地主及び不生産階級の需要の總額——従つて經濟表の思考方法によれば所得總額——は

$$250 \times \frac{1}{1 - \frac{35}{144}} + \frac{5}{12} \times 350 \times \frac{1}{1 - \frac{32}{144}} = \frac{57000}{109}$$

であり、工作品に對する地主及び生産階級の需要の總額は

$$350 \times \frac{1}{1 - \frac{35}{144}} + \frac{7}{12} \times 250 \times \frac{1}{1 - \frac{35}{144}} = \frac{71400}{109}$$

である、と爲すべきであつたと思はれる。³¹⁾

所が斯くの如き計算が行はれたものとするならば（二邊氏の計算によつた所で以下のことは本質的には同じであるが）、不生産階級の許に残る所の貨幣は $\frac{71400}{109} \times \frac{7}{12}$ であり、生産階級の許に不足する所の貨幣は

$$\frac{57000}{109} \times \frac{7}{12}$$

である。即ち此の兩者は到底一致し得ないのであり、従つて斯かる體系は全體性の考察と相容れざるものである。

19) Mirabeau の *Elémens de la philosophie rurale* に挿入されたものとして August Oncken が *Geschichte* S. 394 に掲げたものは、第二版のそれと、枝葉の點に於いて大分異つてゐる第一版原稿に近い。Othmar Spann が *Die Haupttheorien der Volkswirtschaftslehre*, 19 Aufl. 1929, S. 40-41 に獨譯掲載したのは、この Mirabeau の經濟表である。高橋氏前掲書1042頁、福田徳三博士、流通經濟講話巻頭、(經濟書其一)及95頁。厚生經濟研究248頁

五 結 論

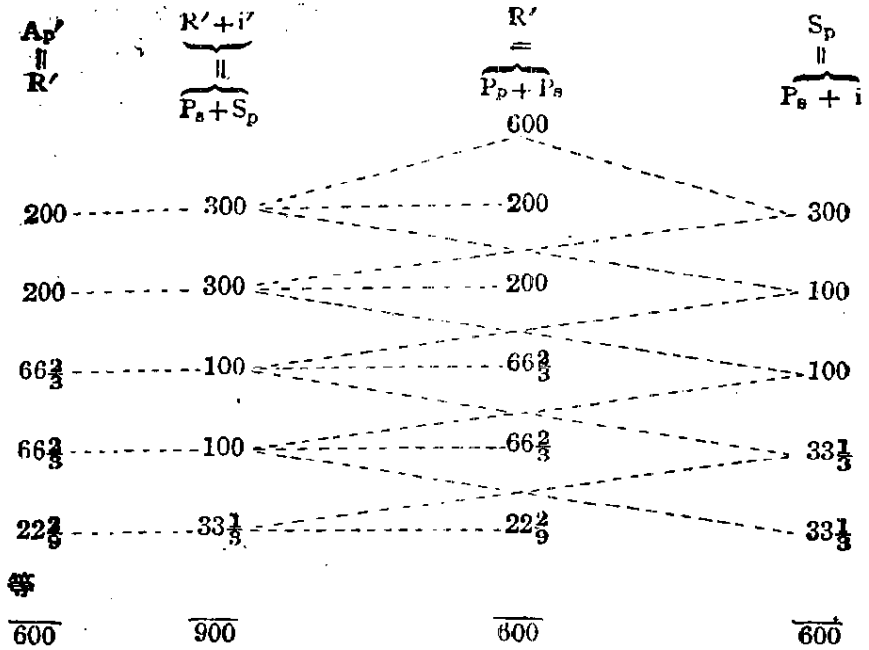
前項に於いて明にした様に、經濟表は其の應用に於いて全體性の考察と相容れざるものとなつてゐるのであるが、それは經濟表が一、生産階級の生産物に對する地主及び不生産階級の需要を生産階級の生産的支出と同視したるが爲めであり、二、其の事から生ずる缺陷を補ふ爲めに考察を部分現象に限つたからであり、三、部分的考察が全體の考察と相容れ得る爲めの前提條件が經濟表の應用に際して看過された爲めである。即ち今、生産階級の生産物に對する地主及び不生産階級の需要を生産階級の生産的支出と同視する事を止め、生産階級の年々の前拂に等しい所の純所得は、地主及不生産階級に對する生産階級の生産物の販賣額の $\frac{2}{3}$ に達するに過ぎざるものとし、生産階級の本源的な前拂の補充、従つて工作品に對する生産階級の需要を、其の年々の前拂の $\frac{1}{2}$ に等しとし、工作品に對する不生産階級自身の需要を看過するならば、而して強ひて經濟表に近似するズイグザグを用ひるならば、經濟表は(第六)の如きものであるべきであつた、と思はれる。

而して若し此の事が明にされるならば、苟しくもケネーの程度の價值の分析に止る限り、(第七)によつて示される様に、地主の支出が生産不生産何れの階級の生産物により多く傾かうとも單なる其の事によつては國富は影響されない、と言ふ事が推論されたであらう。

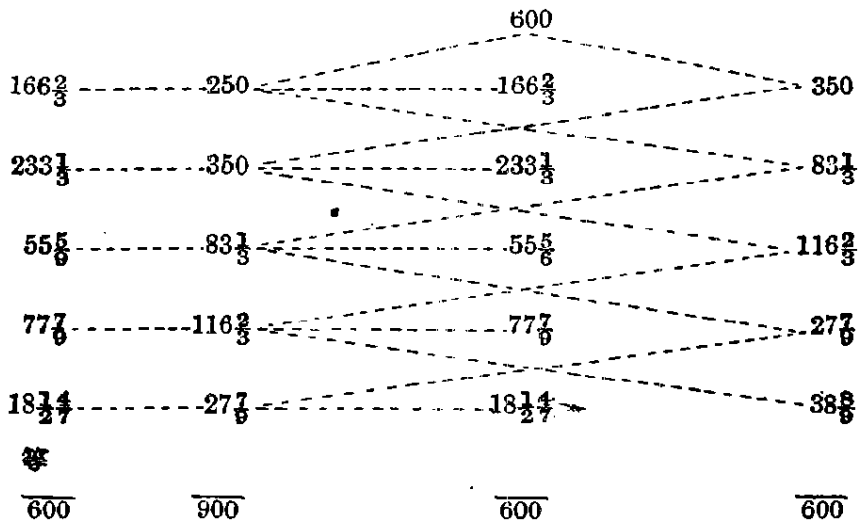
經濟學の生誕の朝に於いて既に、全體性の把握を問題にし、流通過程の法則性を究明せんとし

- 20) 「經濟表」と云ふ言葉を斯く限定したのは只序述の便の爲めである。尙ほ山本勝市氏「ケネーの經濟表の種類に就いて」内外研究昭和三年一卷一號参照。
- 21) 以上は大意である。詳細は脚註17の文献参照。
- 22) 參照：舞出氏前掲 119—120頁、島田氏前掲 67頁、Spann: a. a. O. s. 43. Oncken: a. a. O. s. 396. 福田博士前掲103 5頁
- 23) Arthur Eli Monroe 氏英譯 Early Economic Thought. p. 341—343. 原書によ

(第六)



(第七)



備考 計算の基礎は $R'+i=P_p' \frac{1}{1-\frac{1}{3}} + P_s' \frac{1}{1-\frac{1}{3}}$ 、 $R'=600$ 及び、(第六)の場合には $P_p'=P_p$ 、(第七)の場合には $7P_p'=5P_s'$

- る事が出来ないので假にこれにする。
- 24) 勿論この書が、經濟表の唯一の課題であつたのでは無いが。
 - 25) Stephan Bauer. *ibid.* p. 16. (括弧内は柴田) 同様の見解、舞出長五郎、前掲122頁
 - 26) 三邊金藏氏、前掲、十二卷十一號、45頁 (括弧内は柴田) 同様の見解島田英一氏前掲74頁。
 - 28) Ohcken. a. a. O. S. 396

資本の再生産をも體系の中に採り入れた事、等々の意味に於いても、經濟表は明かに不朽の文献である。此の不朽の文献について本稿の目的とした所は、全體性の體系的把握と言ふ困難なる企圖が、其のはじめに於いて如何なる姿に於いて達せられたか、と言ふ事を、單に體系の形式的方面から、而も極めて限られたる看點から、究明しやうと言ふ事に過ぎない。従つて、價值論の分析が如何なるものであつたか、それは如何に天才的な素描であつたか、當時の經濟状態と如何に結びついたか、經濟學史上の其の地位は如何に考へらるべきであるか、等々のより重要なる問題にも、意識的に、言及しなかつた。蓋之等の點については、幾多の人々によつて爲された澤山の立派な研究が存在するのであるから。

一九三〇・五・六

- 29) Arthur Eli Monroe, *ibid.*, p. 343.
 30) 三邊金藏氏 前掲十二卷十一號 134頁三邊氏は農作品に對する需要の^よだけ増加したる場合を計算して居られるので、(左及中)の數と(右)の數とは正反對になつてゐるのを、便宜上、書き替へた。ミラボーの計算を今参照し得ないのは残念である。
 31) 尤も此の計算による時はケネーの答とや變つた數になる。